



人と暮らしに寄り添い、走り続けた先人たち。
その歴史と想いが、いま次の世代へ。

蒲郡商店街 がまごおりしょうてんがい

JR・名鉄「蒲郡駅」周辺の8つの発展会で組織する蒲郡商店街。人にやさしい商店街を目指し、平成15年に中央通りで歩道整備プロジェクト「Rocken Road (ロッケン・ロード)」を実施。翌年には会場を歩行者天国にして開催する「福寿稲荷ごりやく市」がスタートしました。今や商店街の代名詞とも言える同イベントは、20年の節目となる令和6年、実行委員が世代交代へ。同年、駅北商店街活性化チームや蒲郡を拠点とするイベント運営グループが立ち上がるなど、いままさに、蒲郡商店街に新しい風が吹き込んでいます。



事例集は「愛知県商業流通課webページ」でもご覧いただけます

GAMAGORISHI TENNGA



提灯ひな庄は明治時代創業



1940頃 繊維業で栄える

「日本後記」によると平安時代から織物が行われていたとされ、後に三河織物へと成長していく。昭和40年代には織物・繊維ロープ工業が製造品出荷額等の8割近くを占めるほどになった(蒲都市ホームページによる)。商店街の北側にたくさんあった機屋(はたや)で働く女性労働者たちが商店街を利用して活気があった。



左:昭和28年の中央通り5丁目辺りの様子。店が建ち並んでいるのがわかる
右:昭和57年の銀座通りあたりの様子。歩道にアーケードがかかっている
(提供:蒲郡商店街振興組合)

1950頃 銀座通りが防火帯建築となる

耐火建築促進法によって銀座通りを防火帯建築とした。現在は老朽化から取り壊しが続いている。

1964 「蒲郡商店街振興組合」発足

8つの発展会で組織される「蒲郡商店街振興組合」発足。

1971 ユニー蒲郡店オープン

駅の南側に大型店「ユニー蒲郡店」がオープン。

1970頃～ 祭りが盛況だった

盆踊りは丁目ごとにやぐらを立てたので、中央通りに6つもやぐらが並んでいた



複数の発展会がひとつの振興組合を組織するのはめずらしい。各発展会が一体となってまちの盛り上がり形成してきたことがうかがえる

振興組合は、商店街で働く人のために16世帯ほどの5階建てアパートを社宅として保有していた。このアパートの家賃収入は、祭りなどの財源となっていた(2023年に売却)

昭和50年代から平成に入る頃までが最盛期。通りに5件も銀行があった

左:中央通りの盆踊りの様子
右:銀座まつりの様子
(提供:蒲郡商店街振興組合)

1988 ジャスコ蒲郡店(現イオン)移転

竹谷町へ移転。

1999 ヤオハン蒲郡店閉店

2000 アピタ蒲郡店オープン

ユニーの跡地に「アピタ蒲郡店」がオープン。

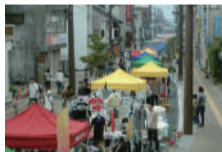
2003 「Rocken Road」実施

中央通りが国道から市道になるのを機に、歩道整備プロジェクト「Rocken Road」を実施。車の速度を抑制するシケインと、バリアフリーが特徴の道路となった。マップも作成した。



2001年の中央フェスタではプロレスもやった!

2004 「福寿稲荷ごりやく市」開催



通行止めにするため住人からの反対もあったが、今では出店者にファンもついてきている

2000年代初頭、飲み屋街で賑わっていたあたりにマンションが立ち並びにつれ、店はなくなっていった

2010頃 銀座通りのアーケードを撤去

老朽化から銀座通りのアーケードを撤去した。

振興組合ができたころは250店ほどの加盟店だったが現在では90店ほど

2023 ターニングポイント 「蒲蛙(がまがえる)」立ち上げ

蒲都市在住、古き良き賑やかな蒲郡を再建すべく立ち上がった同級生4人組のまちづくり団体。

ごりやく市の会議参加や出店、オダフルーツの駐車場を借りての野外居酒屋イベント開催などに取り組み中

2024 ターニングポイント 「G-Walkers」立ち上げ

地元出身の居酒屋「ごすけ」のふたりも関わって、商店街の飲食店やキッチンカーが集まる「屋台村祭り」を開催。

波及効果 イベント実施



30代・40代が元気!出かけると毎週のようにどこかでイベントが開催されていて、ここ何年かまちづくりの動きの波を感じる

昔、商店街にあった温泉を復活させたい!

2024 ターニングポイント 「がまきたいっか」立ち上げ

商店街の活性化を目指す商店主や有志の集まり。6月には蒲郡を回遊して巡るイベント「GAMA-GO-ROUND」、12月には子どもたちのクリスマスマーケット「GAMA-GO-ROUND vol.2」を開催。

波及効果 イベント実施



駅前の防火帯建築は雨漏りがひどく住民も高齢者で管理組合もない。核になる人もいないことで取り壊しとなっていく

2階が住まいだと、1階は貸しにくかったり、出入口や水回りが1つだったり、お風呂がない物件もある

バランスよく小さい町にしていけば、マンションも大事。ものづくりなどをするには、程よく開放としていることが心地よいという意見も

今後の課題

- ・様々なまちづくりのグループがバラバラに活動している。連携を取っていききたい。
 - ・若手で出店したい人はいるが物件がないので空き家を活用していききたい。
 - ・昔のように大型店とも協力してまちの活性化をしていきたい。
- 若手のパワーで祭り運営や事業継承・空き家対策などに取り組み、歴史をつなげていきたい。



蒲郡商店街

昭和39年、蒲郡商店街振興組合設立。蒲郡駅周辺の8つの発展会（中央通り、中通り、北駅前、南駅前、本町通り、銀座通り、神明・八百富駅前通り、駅前通り）で組織される商店街です。三河織物の中心地として古くから繊維産業が盛んな地域であり、国道23号線、JR・名鉄蒲郡駅に面していて利便性も高く、昭和50年代は特に大きな賑わいをみせました。

平成16年9月から、蒲郡市の中心市街地の活性化を目的とした「蒲郡TMO事業」の一環として、テント市やイベントを実施する「福寿稲荷ごりやく市」を開催。会場となる中央通りの約400mの区間が歩行者天国となり、蒲郡商店街および一般公募の出店者で約50店のカラフルなテントが立ち並び、現在も市内外から多くの人を訪れています。



- 中央通り発展会
- 銀座通り発展会
- 駅前本通り発展会
- 駅北発展会
- 神明・八百富発展会
- 南駅前発展会
- 本町通り発展会
- 中通り発展会

蒲郡駅周辺8つの発展会でつくる商店街

>>武田さん

昔は蒲郡駅の北側に三河木綿の機屋（はたや）がたくさんあって、市内はもちろん、国鉄（現:JR）を使って幸田町や御津町からも多くの人を訪れました。近くで住み込みで働く女性の方もいて、お店では芸能人のプロマイドがよく売れたと母から聞いたことがあります。

>>小田さん

現在の形となる8つの発展会で組織される蒲郡商店街振興組合が発足したのが昭和39年。前年に「商店街振興組合法」が施行されたことがきっかけでした。最初、組合員の数はそれぞれの発展会に点々というだけで、250店ほどでした。そこから、商店街で働く人のための5階建ての立派な社宅もできて、昭和50年代から平成に入る頃までが一番賑わっていたんじゃないかな。

>>武田さん

あの頃はまだ、発展会ごとに夏のお祭りをしていたのですが、どこもすごい賑いでしたよ。道幅いっぱい人があふれるほどでした。

>>小林さん

僕が子どもの頃、銀座通りのお祭りがごった返して動けないくらいでしたね。

>>武田さん

中央通りでは、中央フェスタというお祭りをしている頃もありました。道路にリングをつくってプロレスをしたり、町ごとに櫓（やぐら）もつくって。その時の若手の店主が中心となって、数えきれないほどのイベントを企画しました。社宅を振興組合が運営管理していて、その財源があったからできましたね。

>>小林さん

プロレス、すごく覚えてます。僕は地元が近くで、商店街には日頃からトレカやゲーム、花火なんかを買いによく来てました。お年玉をもらったら商店街でくらい、子どもたちにとっても欠かせない場所でした。

>>小田さん

いつからか、少しずつ商店街の元気もなくなってきて。今思い返すと、昭和50年代後半から平成にかけてスーパー「ヤオハン」や量販店「ジャスコ」があって、駅前の賑わいの拠点になっていたように思います。スーパーの帰りに商店街のお店に寄ってくれるお客さんも多かったし、お祭りにも積極的に協力してくれて。その2つが次々と廃業や移転してしまったことも大きかったですね。商店街衰退の要因の一つに大型店の進出があげられることもあります。蒲郡商店街にとっては一緒にまちを盛り上げる仲間として、とても心強い存在でした。

ごりやく市が人とお店、お店とお店を結び後継者問題解決の糸口になれば

武田辰美さん
人形・ちょうちん・トレカのひな庄 店主
福寿稲荷ごりやく市 実行委員



まちの魅力を広く発信し、いつか蒲郡を丸ごと堪能できる観光スポットにしたい

小林拓矢さん
居酒屋ごすけ 代表



広浜正剛さん
居酒屋ごすけ 統括マネージャー
G-Walkersメンバー



新風を吹き込む若い世代が台頭してきてとても嬉しい

小田裕己さん
フルーツハウス オダ 店主
福寿稲荷ごりやく市 実行委員



これからは横のつながりを深めてモノや場所などを共有する仕組みづくりも必要

中島徹也さん
靴logi(くつろぎ) 店主
がまきたいっか メンバー





テント市を出会いの場に。縁を結ぶ「ごりやく市」

>>武田さん

各発展会でお祭りが縮小傾向になっていった頃だったかな。安心して歩ける商店街にしようと、平成15年に中央通りで6間道路と呼ばれた道を舗装し、バリアフリーにする「Rocken Road」というプロジェクトを実施しました。その時に老朽化していたアーケードも撤去しました。その翌年から始まったのが、今も続く「福寿稲荷ごりやく市」(以下、ごりやく市)です。会場の中央通り3~5丁目を歩行者天国にすることもあって、最初は反対の声も少なからずありましたね。ただ、軌道にのってくと、今度は雨で中止になったりすると残念がる声が聞こえるようになって。歩行者天国だから子どもたちも安心して遊べるし、今では定着して、毎回、多くの方に楽しんでいただけるイベントになりました。

>>小田さん

「ごりやく市」は「食べる・買う・見る」のバランスを大切にしたいイベントで、その見どころの一つはテント市。一般公募で出店者を募るだけでなく、商店街のお店にも出店してもらっていて、初年度は60店舗中10数店舗が商店街からだったかな。知らないお店と出会ってもらい、日常で実店舗に行ってもらおうという狙いがありました。

>>武田さん

市内外からの出店者の中には、「今回、あのお店来てないの?」と聞かれるくらいリピーターを持つ人気店もあるんです。今、店主の高齢化や後継者に悩むお店も多いのですが、いつか軒先を借りるくらいでもいいので商店街でお店を構えてくれたら、未来が少し拓けるんじゃないかなと思っています。家族で後継ぎを見つけれたらいいのですが、それだけでは難しいので、後継者を探す一つの手立てとなればと期待しています。

>>小田さん

「ごりやく市」も実は一度、実行委員の高齢化を理由にやむなく開催の打ち切りを決めていたんです。でも、ちょうどその時、蒲郡を盛り上げようと熱心に活動する若者たちと出会って、その熱意に押される形で、一転継続が決まったという経緯があります。彼らは「昔のお祭りの賑わいを今の子どもたちにも味わってほしい」と話していて、こうして20年以上続けられているのは、彼らの強い想いと当時の商店街の人たちのがんばりがあったからこそだと感じています。

新たなステージへ、蒲郡商店街の挑戦は続く

>>中島さん

僕は9年前から駅前通りで、靴を中心とした革製品を製作販売しています。もともと蒲郡とは縁はなかったのですが、住んでみると駅は近いし、自然もあって、居心地がいい。イベントも週末になるとどこかしらでやっていて、訪れるきっかけがある場所だなと感じています。近年は特に新しい動きも多くて、僕も縁あって東港の整備をきっかけに立ち上がった、駅北商店街活性化チーム『がまきたいっか』の一員として活動しています。

>>広浜さん

僕は、中央通りの九州とり天と焼酎ハイボール「ごすけ」で統括マネージャーとして働く傍ら、蒲郡を中心としたイベント運営グループ『G-Walkers』に参加しています。令和6年11月には初のイベント「屋台村祭り」を開催しました。

>>小田さん

こうやって若い世代が出てきてくれていることは、とても嬉しいですね。「ごりやく市」も令和6年3月の運営を機に、ようやく世代交代することができました。ついに新しい風が吹き始めた。そんな雰囲気があります。

>>武田さん

ただ、まだ店主の高齢化や後継ぎの問題は解決していませんし、空き家や空き店舗を貸したくても住まいないだったり、水回りやトイレなどの設備が整っていないかったり、すぐに貸せない場所も多い。今後の課題です。

>>小林さん

蒲郡商店街でお店を出したいという若い人の声はよく聞きますし、空き家・空き店舗の活用にもっと注力でき

ば、可能性はまだ広がると感じています。銀座通りの防火帯建築の佇まいも魅力的です。

>>小田さん

かつてのように、核となる大型店を誘致することができればもっと心強いですが、イベント日の集客だけでなく、一つのお店を拠点にして人の流れが生まれる仕組みがもう一度つくれたら。そして、肉も野菜も魚も生活用品も商店街に行けば揃う。そんな日常に寄りそえる商店街になればいいなと思っています。

>>小林さん

僕は歴史をつないでいきたいし、今ある魅力や地域資源を発信して多くの人に知ってもらいたいです。将来は、蒲郡商店街に行けば蒲郡を丸ごと堪能できる観光スポットの一つを目指したいとも考えています。

>>中島さん

人口や子どもが減っていることもあり、縮小傾向になっていくことは致し方ないし、身の丈に合わせていくことも必要だと思います。ただ、そうした中でもやれることはたくさんある。たとえば、横のつながりを深めてモノや場所、時間を共有できれば、悩みどころであったお祭りの資材や行灯などをしまう場所の解決の道筋にもなる。集客面でも運営面でもメリットは大きいはず。

>>広浜さん

そうですね。商店街振興組合のメンバーをはじめ、僕たち『G-Walkers』、駅北商店街活性化チーム『がまきたいっか』、他にも蒲郡商店街が大好きで熱意ある若者たちがたくさんいます。みんなで連携しながら、まち全体を盛り上げていきたいですね。



発行/愛知県経済産業局中小企業部商業流通課
企画・編集・デザイン/株式会社ナゴノダバンク
藤田まや、市原正人
安井加奈子、鈴木真理(テキスト編集)、安達麻未(MAP)

イラスト/ parayu
写真(メイン、コラージュ)/岩田直和
対談ライティング/鈴木真理

2025年2月発行

掲載情報は2025年2月時点のものです。